

東日本大震災 災害救援レポート 11



女川町

良い天候のもと、女川町に建設中だった仮設店舗街がオープン。式典を見守る地元の人々



テープカットに救世軍も参加しました

祝辞を述べる米国総司令官と通訳をする日本司令官



オープニング・セレモニーとミニコンサートで会場に花を添えたバンドの演奏

キャンティーカーも出動し、会場に来た人々に桜餅茶を提供→



商工会長から感謝状授与



女川町から漁船で15分、離島の出島を視察のため訪問したオーストラリアからの士官夫妻。仮設住宅に暮らす漁師とその家族から話を聞きました

海外の救世軍からも視察



ノルウェーからの士官は、被災地の仮設住宅の方々に手製のレモンケーキを贈呈

二月末の南三陸町(宮城県)の仮設店舗街オープンに続いて、女川町(宮城県)で建設中だった仮設店舗街(50店舗)が、四月二十九日、「きぼうのかね商店街」としてオープンした。このうち三十店舗は、米国トライデントシーフード社からの献金とSAWSO(米国救世軍の資金を用いている。オープニング・セレモニーには、米国トライデントシーフード社の代表や米国救世軍の総司令官も招かれて、それぞれ祝辞を述べた。救世軍のブラスバンド(ジャパン・スタッフ・バンド)も演奏し、町の新しい出発に花を添えた。SAWSOは他にも、女川漁協に対し、各浜に設置する仮設トイレ(11カ所)やフォークリフト(荷揚げ能力3トン14台)、また、気仙沼漁協には、作業用のテント(11張、作業用トラック(パワーゲート付4台)、潜水具(10セット)、大型コンプレッサーなどの支援をおこなっている。これからも、復興支援は続けられる。

皆様のご支援、ご協力を
心から感謝申し上げます。



大雪の中オープンした「南三陸さんさん商店街」

南三陸町

救世軍は全天候型フードコート・駐車場整備などを支援しました



永沢仮設住宅で夕食を提供、寒さの中長い列ができました

大船渡市



春を待つ気持ちに合う、趣向を凝らした牛丼



名取市

名取市の仮設住宅を初めて訪問。帯広名物豚丼を作り、食事会をおこなった



何度もうかがった仮設住宅では、ほっとする交流のときをもちました



各所で豚丼を作りました

陸前高田市



救世軍からは給食用ワゴンを提供しています

広田保育園では、演奏などをおこない、北海道から預かってきたプレゼントを贈呈→



大震災後、一年が過ぎた被災地で、救世軍は、さらなる復興を願いつつ、現地の人々のニーズに応えた支援をおこなっている。福島県から全国に広がって避難している被災者の方々に、暖房器具などを贈るプロジェクトに、救世軍は他の民間の支援団体などと共に参加している(四千八百軒分)。本部にもお礼のメールや電話が寄せられている。三月十五日、東京地区からの救援チームは、大船渡市(岩手県)の永沢仮設住宅を訪れ、夕食に牛丼(30食)を届けた。春を待つ人々に、雪の下から青い芽がのぞく、という演出の牛丼を提供。四月十日〜十二日には、北海道地区からのチームが、陸前高田市(岩手県)と名取市(宮城県)の仮設住宅などを訪問。食事会をおこない、今まで以上に交流を深めた。また、陸前高田市の広田保育園には、避難用スロープや給食用ワゴン(3台)を提供した。これらには、オランダからの資金が用いられている。

お問い合わせ、ご献金は……
救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
http://www.salvationarmy.or.jp TEL 03-3237-0881